

## 平成 22 年度通常総会



NPO法人alaクルーズの平成22年度通常総会が5月23日午前10時30分から音楽ロフトで開催されました。初めに澤野理事長の挨拶がありalaクルーズも8年目を迎え組織、制度の面で実情に伴わなくなってき



ている点が指摘され、見直しの必要が生じていることが報告されました。引き続き、司会の篠田理事より総会定足数の確認があり、正会員数67名のうち出席者



が委任状を含め41名で総会が成立したことが宣せられました。その後、議長に支援グループの前田さんが指名され、議事に入りました。議事録署名人に相生さん、長瀬さんが指名された後、平成21年度事業報告並びに収支決算報告が久米副理事長、奥田理事により報告され、監事の奥村さんより監査報告がなされました。第2号議案では新役員の承認と監事の選任が行われ、新役員が全員承認されました。また、監事には企画グループの山内前理事と支援グループの春見前理事が選任されました。第3号議案は久米副理事長と奥村理事により平成22年度の事業計画及び事業予算が上程され全会一致をもって承認されました。通常ならこれで全議案が終了ですが、今回は特別に冒頭の理事長挨拶でも触れられた組織の改善を

図るための「alaクルーズ組織検討委員会」の設置が上程され、承認されました。また理事長からは一人でも多くの会員が参加することを呼びかけられました。最後に来賓を代表して衛館長より挨拶をいただき、総会は11時30分に終了しました。続いて交流会が開催され、箆橋局長の乾杯のあと食事をしながらの懇談となりました。



## alaクルーズ全体会議

4月18日午後7時からalaクルーズの全体会議が開かれました。参加者32名。澤野理事長より「alaクルーズは平成13年11月に122名の方で発足しましたが、8年経った今はalaクルーズの転換期ではないでしょうか？」と会員の皆さんへの問いかけでした。創造企画G・支援G・広報Gで構成されているが、創造企画Gの月1回の会議の参加が大変少なく、個人の負担が重くなっているというものでした。フロントスタッフはやってみたいけど、研修を受けていないから参加できないという意見もありました。財団からもフロントスタッフの方向性見直しの話があり、これからは研修を受けていなくても出来る裏方などを手伝ってもらえるようにしていけばどうかという意見もありました。年々会員が減少している中、今の現状に合っていない部分もでてきているので、組織の見直しも含めて検討していこうという結論に達しました。5月の総会で承認を得ることができれば早急に組織検討委員会を立ち上げ、出来るだけ早く実行していくことになりました。



ことができれば早急に組織検討委員会を立ち上げ、出来るだけ早く実行していくことになりました。

フロントスタッフはやってみたいけど、研修を受けていないから参加できないという意見もありました。財団からもフロントスタッフの方向性見直しの話があり、これからは研修を受けていなくても出来る裏方などを手伝ってもらえるようにしていけばどうかという意見もありました。年々会員が減少している中、今の現状に合っていない部分もでてきているので、組織の見直しも含めて検討していこうという結論に達しました。5月の総会で承認を得る



## 第1回alaクルーズ組織検討委員会

平成22年6月6日午後7時30分から創造スタッフ室で第1回「alaクルーズ組織検討委員会」が開かれました。財団からは坂崎氏を迎えalaクルーズは16人の参加でした。澤野理事長の司会の下、まず世話人（リーダー）が4人選出され、今後の委員会の開催日程やミッション（目的）の見直し、定款の見直し等の内容について話し合われました。委員会に登録された24人の意見が反映されるよう、次回からレジメを作成しあらかじめ、各自で意見を持ち寄って参加することになりました。alaクルーズの再生に向けて始まった新プロジェクト。よりよいalaクルーズを目指していきます。



むう... ボランティアとは  
んう... 楽しく活動するには





暑い日が続く中、7月25日(日)にア－ラ祭りも熱く開催されました。今回のalaクルーズの企画は、ア－

# ア－ラ祭り



トひろば「みんなで楽しく音遊び」と題して、楽器を使いみんなでコミュニケーションする楽しさを体験しようと言うものです。講師としてお招きしたのは、NPO法人ぎふ音楽療法協会の3名で「いっしょに歌おう! たのしく踊ろう! 楽器をならそう!」と色々な楽器を持ってきてくださいました。10時から始まったア－トひろばは定員をはるかに超え、見学だけでもと後ろに立ち見ができるほどでした。当日は5回開催で参加者は159名立ち見の人は155名でした。みんなが知ってるゲゲゲの鬼太郎の歌にあわせて、

ちょっぴり妖怪の世界を想像させるような音が出る、スプリングドラムという楽器を鳴らして見たり、少しドキドキしながらも子ども達は楽しんでいる様子でした。次はトーンチャイムという楽器を一人ひとり手に持ち、全員で『海』の曲に合わせ鳴らします♪海は広いな大きいな～♪すると、alaクルーズのメンバーが作る波が現れ、会場が急に海辺に変わります。サボテンから作られた楽器でザザ～ザザ～と波の音も加わります。今回来ていただいた講師の方は「子ども達がとても元気で楽しそうで、返事がすぐ返ってくるという手ごたえもあり、抱っこされている赤ちゃんもグズることなく聞いているみたいです」とおっしゃっていました。参加した子ども達は「はじめて見る楽器を鳴らして面白かった」「振動で手がビリビリして楽しかった」と笑顔で会場の音楽ロフトから出てきました。音楽の楽しさを教えていただいた、NPO法人ぎふ音楽療法協会の方々は保育園や幼稚園、高齢者施設などを廻ってみえるそうで、今回のalaクルーズとのコミュニケーションもしっかり取られていま



した。それは朝の準備体操を北島三郎の『まつり』で行うというものです。スタッフのリラックスを目的とするもので全体感が出てきてよかったという声も聞かれました。来年もやってみたいという言葉が、参加者からもalaクルーズからも出たほど、楽しい企画でした。



次は何をするのかな??

ありがとうございました  
お疲れ様でした



「ala ボランティア研修会・ボランティアを楽しむために！」



6月20日、美術ロフトにて財団主催、永井美佳さん講演による「alaボランティア研修会・ボランティアを楽しむために！」が開催された。学生時代から大阪ボランティア協会で活動し、複数の市民活動団体の事務局勤務を経て、大阪ボランティア協会に入職。今尚、市民活動の幅を広げて活躍されている永井美佳さんは「気分転換に髪型・髪の色・服装もよく変えるので、目鼻立ちとこの口調で覚えてくださいね」と、自らをせっかちで難波のおっさん風と笑う。「ボランティアは、初めのうちは半身のかかわりで良いのよ。半身で…」と言いつつ、次から次へと発せられる大阪弁の軽妙な語り口に乘せられて、約40名の会場は彼女が話すボランティアの世界に魅了され、引き込まれていった。話はボランティア活動のオススメ、自分にあったボランティア活動の見つけ方、活動に参加する7つのポイント、活動をもっと元気に楽しくするヒントと進められた。誰もボランティア活動を「やってみよう」と始めた時は、未知の世界にワクワクドキドキ、しばらくすると慣れも生じ迷いも出てくる。そんな時は原点に帰ろう。ボランティアの語源は「志の人、したくてする人」のことだそう。自分で考えて自己責任で行動し、「する・しない」の束縛は受けない。すべてに対等な関係の中で、どのように役割分担し活動を展開して行くのか？頑張る人が自発性パラドックスに陥らない工夫は？ボランティアの存在意義、イノベーターの宿命と可能性、参加を促すツボは？と話は高度かつ多岐に及んだ。「私たちの活動は社会に地域に共感と信頼を得ているのだろうか？もし、フロントスタッフがいなかったら？」の発想で活動の理念や必要性を考えることを習慣化すること。活動で問題があったら、話し合う場を設け、問題についてすべての情報を探り、問題点を洗い出し解決策を探ることが大切だという。「なぜ？どうして？変だと思ったら変えよう！皆でやれば出来る」という彼女。ボランティア活動への参加を決めたのは自分自身、やる気、世直し、手弁当というボランティアの概念を踏まえ、あらゆることを前向きに考え、活動によって変わっていくもの、地域、自分自身を楽しんでいこうとエールを送られた。折しも、alaクルーズでは組織検討委員会が開催されている。彼女の言葉を反芻したいものである。



編集後記

暑くなりました。今年は冷夏となる予想が5月下旬に出されましたが、米不足とならないように祈ります。おいしい西瓜を食べて元気に過ごしましょう。さて「alaクルーズ組織検討委員会」が進行中です。創造企画G・支援G・広報Gが更にパワーアップされんことを期待します。「三つの矢のたとえ」のように。(H)

alaクルーズ事務局 TEL/FAX:0574-61-3414  
<http://www.kpac.or.jp/alacrews/>  
 Mail: ala-crews@kpac.or.jp

進め! 西可児  
 (27) ほんだひろし & やまむらじき  
 alaクルーズ

